
社会人とは、みんなのためのリーディング (reading, 読み) ができる人のこと

横山詔一

このスライドは、以下の講演をベースにしたものです

青山学院大学 教育人間科学部 創立10周年記念シンポジウム

「リーディングのこれから」パネルディスカッション

2019年3月16日(土)14時40分～17時

青山学院大学渋谷キャンパス 本多記念国際会議場(17号館6階)

リーディング (reading, 読むこと) に何を求めますか？

Why? なぜリーディングをするのか

1. 生きるため, 生活するため, 言語生活を豊かにするため (夜間中学や地域の日本語教室で学ぶ人々の感覚や思い)
2. 公共情報を得るため: 自治体Webページなど (例: ゴミ収集日, ワクチン接種など)
3. 競争場面での問題解決のため: ビジネスなど
4. 楽しむため: 娯楽, エンターテインメント
5. 知的好奇心を満たすため: 自己実現, 学び
6. 癒しを得るため, 苦悩からの解放, 生きがいの探求, 魂の救済のため: 生老病死の哲学, 人生相談 (人間関係の悩み)

リーディング (reading, 読むこと) に何を求めますか？

1. 私が人生でもっとも真剣にリーディングに取り組んだのは、入学試験会場で現代文の問題を読んでいたときだったと思う
2. どのような文章が出題されたのか、まったく記憶には残っていないけど・・・
3. 入試現代文の「読解」について、すこし考えてみたい

入試現代文の問題を出す立場の経験から

1. 20年ほど前, ある全国規模の学校組織から国立国語研究所に入試国語問題の作成について協力の依頼があった
2. 国語学者・日本語学者ではない横山が, なぜか所長の指名を受けて問題作成作業(非公開)に公務で参加
3. その結果, **出題者の立場や心理**がすこし見えるようになった

入試現代文に自分の文章が出題された経験から

1. ある雑誌に書いた自分の文章が、2008年1月27日に、ある私立大学の入試現代文として出題された
2. 入試現代文の「**正答とはなにか**」を考える機会に恵まれた

入試現代文に自分の文章が出題された経験から

1. 「著者の考えに最も近いものを次の4つの選択肢のなかから選べ」というような問題について
2. 私が著者なのに、どれが私の考えに最も近いのか確信が持てない場合があることを実際に体験
3. 多くの書き手が同様の述懐をしている。丸谷(まるや)才一氏の「慶応大学法学部は試験をやり直せ」(新潮文庫『完本日本語ために』所収)など
4. 出題者は「著者の本当の考え」を知らずに正答を決めていることがよくわかった【そもそも「本当の考え」は著者でも分からないのでは？：相澤正夫氏(2019年1月31日の私信)】

入試現代文の社会性

1. 競争場面における「**ゲーム的読み**」の典型例
 - 多くの人が同じ時間に同じ文章を一斉に読み、正答を求める
 - 事後に(予備校などによる)正答例が広く社会に公開される。それが出題者グループに何らかの心理的圧力を与える
2. 正答とされるものは「**ある集団が共有している社会的規範**」であり、それを「読み切る」ことができるか否かが勝負のポイント
3. つまり、真偽や正誤とは別次元の基準にしたがうことが多い
4. その実例と説明は、清水義範氏の小説「国語入試問題必勝法」(講談社文庫所収)などに豊富に示されている

学生時代のリーディングは
結局のところ「わたし(自己)」のため: *For me*

- わたしが楽しむために
- わたしの知的好奇心を満たすために: わたしの自己実現, わたしの学び
- わたしが癒しを得るため, わたしが苦悩から解放されるため, わたしの生きがいの探求のため, わたしの魂の救済のために
- わたしのビジネスのために

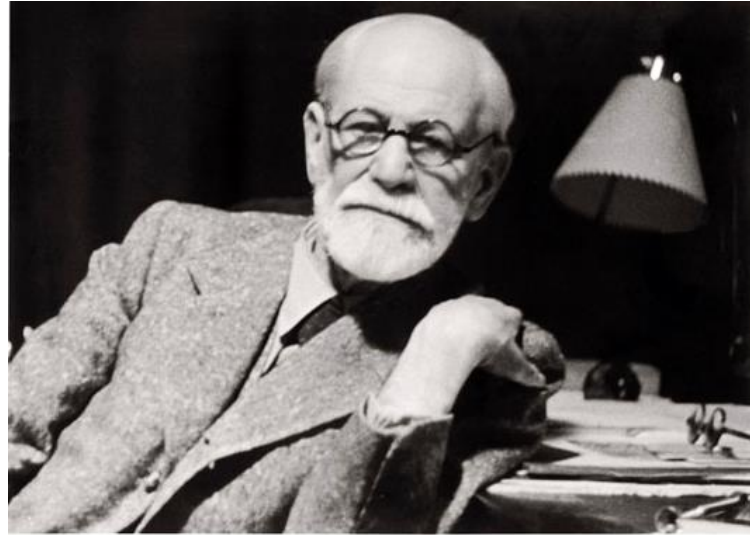
社会人は「みんな(他者)」のためのリーディングもできる:

For you

他者の人生までも楽しく, 豊かにするため

- みんなに楽しんでもらうために: その典型例は, 子どもに絵本の読み聞かせをする, 目が不自由な人のために朗読をする => 日本語が不自由な人のサポートをする(日本語教育なども)
- みんなの知的好奇心を満たすために: みんなの自己実現, みんなの学びをサポートする
- みんなの癒しのため, みんなが苦悩から解放されるため, みんなの生きがいの探求のため, みんなの魂の救済のために
- みんなのビジネスのために

2. お互いのために読み合う



フロイト先生

- 「読み合わせ」活動をおこなう
- 他者を応援するための読みが, 自分のリーディング・マインドを鍛えてくれる
- 書評について

「読み合わせ」活動をおこなう

- 青山学院大学文学部の共通科目「心理言語学」を2003年から16年間にわたって担当(2019年3月で終了)
- 就活や将来の転職活動に使う自己紹介文を790字以上800字以内で書く(読み手は企業等の人事担当者を想定)
- 800字とする理由は(1)読み手にやさしく、書き手に厳しい長さを体験するため、(2)200字程度ごとに「小見出し」をつける訓練のため
- クラス全員で他の人の自己紹介文を読み、さらによい自己紹介文にするにはどうしたらよいかをコメントシートに書いてあげる
- これは peer reading あるいは peer learning の一つの形か

他者を応援するための読みが、自分のリーディング・マインドを鍛えてくれる → **心を読む(マインド・リーディング)**と同じ

- お互いのために読み合うことで、学生は「読んで**あげる**こと」と「読んで**もらう**こと」がつながっていることを実感し、**読み手と書き手の両者の立場・心理を理解する契機**となる
- リーディングとプロダクションは連続線の上にある
- その結果、**批判的読みとは他者の文章を批判するものではなく、自分を見つめなおし、他者を応援するためのものであることに気づく**